

中央アジア諸国における 連携阻害要因の抽出と 意思決定モデルの構築

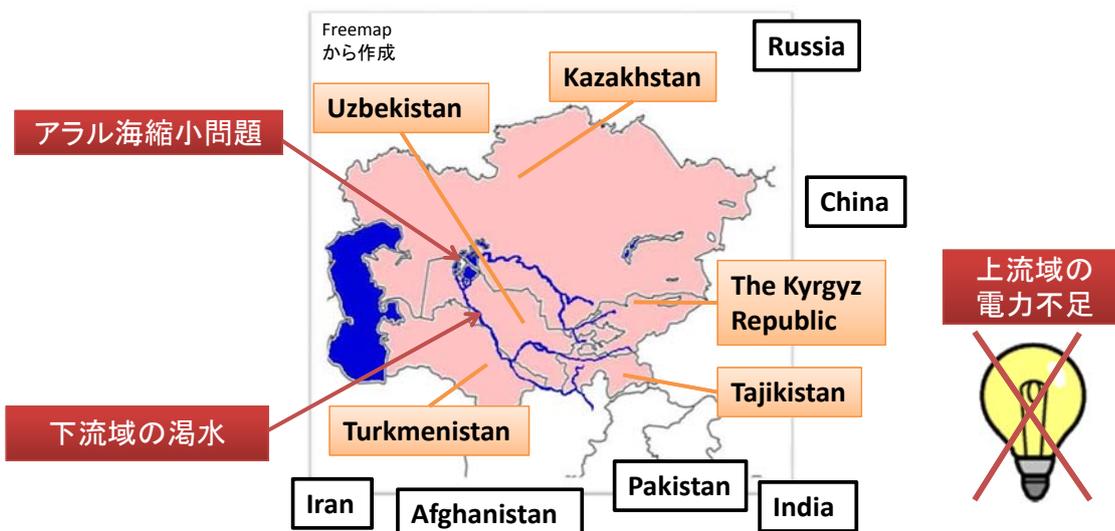
2012年2月

国際プロジェクト研究室 北村直輝

指導教員:堀井秀之

中央アジア地域の現状

1.背景



- ・各国による独自開発の結果、域内各地で摩擦が発生.
 - ・域内連携に向けた援助は成果を挙げられず.
 - ・連携が成立しにくい原因:意思決定者によって域内調和が乱されている.
- (JICA 2009, Inagaki 2009, Bohr 2003, Spechler 2002)

域内連携につながる援助の設計には、
各国の援助計画に対する意思決定の予測が必要。

本研究の目的:

中央アジア諸国の意思決定に関するモデルを構築すること。

本研究の方法:

①連携を阻害してきた要因の抽出

「政治(国家リーダーの意思決定)による要因が支配的であること」の確認
・インタビュー調査, 文献調査から情報収集

②事例分析に基づく意思決定モデルの構築

意思決定に関わる影響因子を抽出し, その優先順位を明確化

ー連携事業の事例分析ー

- ・対象: タジキスタン-アフガニスタン間送電線建設事業
- ・インタビュー調査及び文献調査から情報収集
- ・分析対象国の意思決定に関わる影響因子の抽出
政治経済状況、諸外国との関係をふまえて抽出

・分析対象国の意思決定の分析

得られた因子が、各意思決定に対し与えた影響を分析
それを基に、その優先順位を明確化

3

～連携阻害要因の抽出～

3.分析①

| 問題項目 | 連携阻害要因 |
|--------------------|---------------------------------|
| 政治(国家リーダーの意思決定)の問題 | 経済便益より国家秩序を優先する傾向 |
| | 象徴的な行動を断行する傾向 |
| | 水・エネルギー資源共有に対する消極的な姿勢 |
| | 大国からの干渉に大きく左右される状況 |
| 行政の問題 | 行政能力が低い(例: 国際約款に不慣れ) |
| | 外からは見えにくい裏金、裏リーダーの存在 |
| 経済構造の問題 | 第一次産業に対する過剰依存 |
| | 政府に守られた国営巨大企業の存在 |
| | 連携のメリットが一番大きい、中小企業が十分に発達していないこと |
| | 不透明な経済活動 |
| インフラ水準の問題 | 国内インフラの不足、老朽化、国土と不一致 |
| | 域外インフラ不十分、経済状況にあっていない |
| その他社会問題 | 民主化運動による政情不安 |
| | 宗教対立由来の社会不安 |
| | 民族対立から生まれる相互不信 |

中央アジア諸国の連携を阻んできた支配的要因は、各国の政治(国家リーダーによる意思決定)にあると言える。

4

～事例分析に基づく意思決定モデルの構築～ 4.分析②

対象事例: タジキスタン-アフガニスタン間送電線建設事業



タジキスタン大統領が積極的に意思決定を行った事例の一つ



タジキスタンを分析対象国に選定

- タジキスタンの意思決定の影響因子
- 1) 経済的便益
 - 2) 国内への電力供給
 - 3) 自主独立志向
 - 4) 新市場との友好関係
 - 5) 中央アジアでの地位向上
 - 6) 国際機関との関係強化
 - 7) 大国からの支援

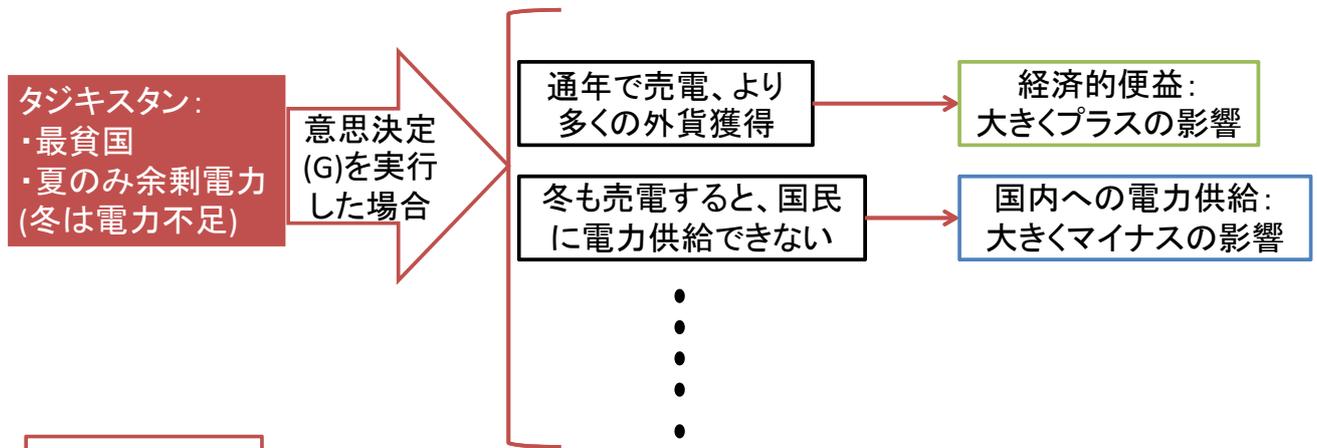
- タジキスタンが事業期間中に、実際に下した意思決定
- A) アフガンとの電力売買取引への合意
 - B) 米国との会合を通じた関係強化
 - C) 流域管理機関への参加続投
 - D) 物流を意図的に止めたウズベクとの外交
 - E) イラン・パキと売電契約合意、発表
 - F) アフガンの通年契約への変更要求を拒否
 - G) 交渉の後、契約変更要求を承諾

～事例分析に基づく意思決定モデルの構築～ 4.分析②

○意思決定の分析(例)

意思決定G):

夏場だけの電力取引を通年に変更するようアフガニスタンから要求があり、それを承諾した



意思決定に、どれほど影響を与えたかを5段階で評価 (◎, ○, △, ×, ××)

| | 経済的便益 | 国内への電力供給 | 自主独立 | 新市場友好関係 | 中アでの地位向上 | 国際機関関係強化 | 周辺大国から支援 |
|----|-------|----------|------|---------|----------|----------|----------|
| G) | ◎ | ×× | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ |

～意思決定のモデル化～

他の意思決定も同様に分析

A)アフガンとの電力売買取引への合意

B)米国との会合を通じた関係強化

C)流域管理機関への参加続投

D)物流を意図的に止めたウズベクとの外交

E)イラン・パキと売電契約合意、発表

F)アフガンの通年契約への変更要求を拒否

G)交渉の後、契約変更要求を承諾

意思決定に、
どれほど影響
を与えたかを5
段階で評価
(◎,○,△,
×,××)

| | 経済的 便益 | 国内への 電力供給 | 自主独立 | 新市場 友好関係 | 中アでの 地位向上 | 国際機関 関係強化 | 周辺大国 から支援 |
|----|-----------|--------------|------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| A) | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| B) | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| C) | △ | △ | △ | △ | △ | ◎ | △ |
| D) | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | △ |
| E) | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| F) | × | ◎ | ◎ | × | × | ○ | × |
| G) | ◎ | ×× | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ |

「自主独立志向」
「国際機関との
関係強化」

「大国から支援」
「中央アジアでの
地位向上」
「経済的便益」
「新市場への
友好的関係」

「国内への電力供給」

7

5.研究成果と
今後の展望

本研究の成果

タジキスタンの意思決定をモデル化した。

意思決定に関わる影響因子の抽出し、それらの優先順位を明示した。

今後の展望

ーモデルの活用ー

地域連携につながる援助の設計に意思決定モデルを活用する。

- ・各国にとって望ましい条件と、地域連携に向けて有効な条件を組み合わせた援助のロードマップを作成する。
- ・どのような組み合わせであれば各国が援助を受け入れるかを判断するために意思決定モデルを用いる。

8